

盛岡レーメンの販売収益金寄付のご報告

東京電力福島第一原発事故による放射能汚染の影響によって避難されている方々、生活環境・健康に多大な影響を受けている福島の子どもたちを支援するため盛岡レーメンの物資販売に取り組んでいただきありがとうございました。昨年度、今年度の取り組みから120万円の寄付金を捻出することができました。各単産・団体、地区原水禁・地区労組会議の取り組みに対し、心から感謝を申し上げます。

昨年12月23日に松本市内で、県原水禁の宇佐美正信代表委員から「チェルノブイリ連帯基金」の神谷さだ子事務局長、「311受入全国協議会」の早尾貴紀共同代表に、それぞれ寄付金40万円を手渡しました。当日は、震災からの10年間の取り組み、コロナ禍における新たな被災者への支援などについて報告を受けました。

宇佐美代表委員は「原発事故の影響で苦しんでいる子どもたちの支援は重要」と述べ、早尾共同代表から「震災から10年が経過して関心も薄まり活動の継続が難しくなっている状況でのご支援ありがたい。全国の仲間、被災地にいる方々の励みになる」、神谷事務局長から「コロナ禍のなかで制約もあるが保養支援を継続していきたい」などの感謝の言葉をいただきました。

12月10日には東京都内で、「3・11甲状腺がん子ども基金」の崎山比早子代表理事に喜多事務局次長から寄付金40万円を手渡しました。「甲状腺がんの子どもたちへの支援につかいたい」と感謝されました。

福島の子どもたちを支援する3団体に寄付金を贈呈しました

311 受入全国協議会

日本チェルノブイリ連帯基金

3・11甲状腺がん子ども基金



■松本地区労組会議事務所 (12/23)

■日本チェルノブイリ連帯基金事務所 (12/23)

■3・11 甲状腺がん子ども基金事務所 (12/10)

写真左中央：宇佐美代表理事から早尾共同代表（311 受入全国協議会）、神谷事務局長（チェルノブイリ連帯基金）に寄付金を手渡しました。

写真右：喜多事務局次長から崎山代表理事（3・11 甲状腺がん子ども基金）に寄付金を手渡しました。

- 3 団体活動**
- 「NPO 法人日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）」（松本市）
福島の子どもたちの長野県内での保養支援・甲状腺検査・放射能測定などに取り組む。
 - 「NPO 法人3・11甲状腺がん子ども基金」（東京都）
甲状腺がんの子どもたちの療養費の給付ならびに情報提供などの支援に取り組む。
 - 「311受入全国協議会（うけいれ全国）」（全国ネットワーク）
全国の保養支援団体が集まる相談会の開催（福島県内外）や保養支援団体への助成などに取り組む。

原水爆禁止長野県協議会（長野県原水禁）

〒380-8545 長野市県町 532-3 長野県労働会館 TEL 026-234-2116 FAX 026-234-0641

NPO 法人日本チェルノブイリ連帯基金 (JCF)

<https://jcf.ne.jp/>

福島の子ども達を守るプロジェクトを進める力に

皆さまには応援をいただき、チェルノブイリ、イラク、福島への支援活動を 31 年間続けていくことができました。皆さま、お一人お一人からのお気持ちが、それぞれの地の子ども達を守るプロジェクトを進める力になっています。この度、いただきました貴重なご寄付は、福島の子ども達のために使わせていただきます。JCF の福島事業は、放射能測定・健診・保養です。年明けから、コロナの第 6 波に見舞われていますが、状況を見ながらこれらの事業を継続して参りたいと思います。皆さまのご協力に感謝しつつ、微力ながら歩み続けます。広報誌「グランド・ゼロ」、WEB で活動報告をして参りますので、ご覧ください。本当にありがとうございました。

NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金

<https://www.311किन.org/>

甲状腺がん当事者が抱える再発の不安、感謝の気持ち

原水爆禁止のための、貴団体の長年のご活動に敬意を表します。この度は、当基金の事務所にお越しくださり、甲状腺がんの子どもたちへの温かいご寄付を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

当基金は、東京電力福島第一原子力発電所の事故当時 18 歳以下で、放射性ヨウ素の拡散した福島県をはじめとする 1 都 15 県で、甲状腺がんと診断された子どもとそのご家族に、療養費の給付ならびに情報提供などの支援を行ってまいりました。長野県も、その支援対象地域のひとつで、申請も受けております。今年の 3 月末時点で、支援した子どもたちは 176 人にのぼりました。

当時は幼かった子どもたちも成長し、進学や就職、結婚や出産など、人生の新しいステージを歩んでいる人も少なくありません。そのような中で、甲状腺がんの経験は当事者にとって過去のことではなく、再発に対する不安や日々の健康問題、長期にわたる術後の経過観察における経済的問題など、さまざまな悩みも抱えています。一方で、その経験を糧にして前に進もうという信条や、支えて下さる周囲の方々への感謝の気持ちなどが、アンケート (HP で公開) のなかで率直に語られております。どうぞご高覧ください。基金は、子どもたちの支援と共に、原発事故と甲状腺がんの正確な調査研究を行うよう政府、県に要請し、甲状腺がん多発に対する社会の関心を高めるため、これからも尽力していく所存です。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 1 1 受入全国協議会 (うけいれ全国)

<http://www.311ukeire.net/>

〈3.11〉の始まりから 10 年を迎えて

2011 年 3 月 11 日は、現在もなお続いていく複合被災が「起きた日」ではなく、それが「始まった日」でした。原子力緊急事態宣言は現在も発令中です。「311 受入全国協議会」(略称：うけいれ全国)は、避難移住ができない家庭の子どもたちのために全国で「保養」を企画する団体と、現地の支援団体が、活動を維持・発展するためのネットワークとして 2012 年に結成されました。さまざまな寄付金や助成金を寄せていただき、福島県を中心に被災地での相談会を開催したり、加盟団体の保養活動に助成金を配分したりすることができました。関心を寄せ続けてくださったみなさまに深く感謝いたします。通常 of 自然災害とは異なり、10 年を経た現在も放射能汚染と新たな放射能漏れという巨大な障壁が根本的な「復興」の実現を遠ざけ続ける中、終わりが見えない支援活動が求められています。しかし新型コロナ渦のなかで、対面交流をこそ旨とする現地相談会および全国の保養企画とが著しく制約された状況にあります。オンラインでの会議や交流によって関係性を維持しつつ、もうしばらく我慢をしなければならないのは、とりわけ保養を必要とする人びとにはさらなる試練の時であろうと推察します。みなさまと苦境を分かち合いつつ、遠からず相談会や保養の場で再会できることを強く願ってやみません。